

蒲原新一

1994年4月に情報科学センター助手として本学に採用された時期は社会においてインターネットの普及時期であり、本学でもキャンパスネットワークの構築やインターネット接続環境の整備を進めている時でした。建物間の光ケーブルの接続等のハードウェア整備やネットワーク運用のためのサーバ類の立ち上げなどに携わりました。その後のシーサイドキャンパス開設による2つのキャンパス間の接続も工夫を凝らして構築してきました。

教育・研究の環境づくりとともに、当時はネットワーク環境化において力覚を利用する人工現実感システムの構築やモバイル通信環境を活用した遠隔授業への研究に取り組んでいました。また、近年は情報システムのネットワークだけでなく、市民活動における参加者の継続的な活動に寄与していく人的ネットワークのつながりづくりや、参加型評価法を用いてネットワークによる協働状況を評価する手法について研究を進めています。

大学運営では、2016年4月より学生部長として本学学生のキャンパス生活に対する総合的な支援に取り組みました。学生にとって大学生活の4年間は、講義や実験による知識や技術の習得だけでなく、友人らとのグループ活動、教職員との関係づくりや地域社会との協働による経験の積み重ねをしてもらいたいと考えています。そのための環境づくりについて学生専門委員会を通じて各委員や事務局の方々と議論を交わしました。

私自身も学生グループ活動（NiASプロジェクト）の顧問として、学生たちと山に竹を伐採しに行き、竹灯籠を作製しています。この竹灯籠は東長崎地区の花火大会に合わせたサマーナイト水族館（長崎ペンギン水族館）開催時のビオトープ通路の灯りとして活用しています。今では大学のある日見地域のみなさんの協力も得られるようになり、日見地域の年間行事の一つとして認識されるようになりました。

今後も大学や地域社会において活躍する学生を育てる教育環境づくりと、多様な関係者との連携による地域社会づくりに取り組んでいきたいと考えています。